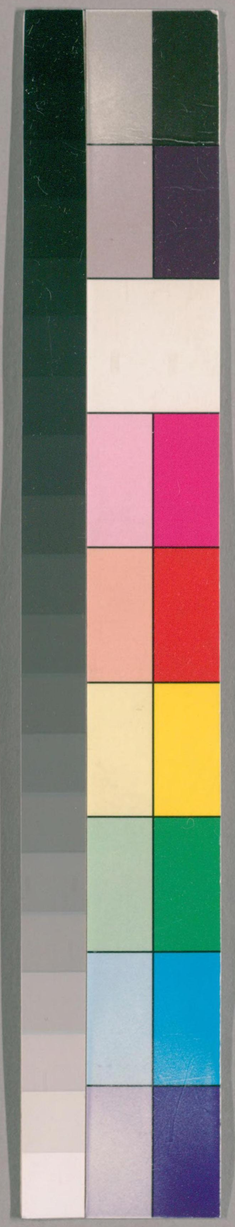


国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

857-47

萬葉集卷第十九

長二十三首
短百三十首
合百五十三首

天平勝寶二年三月一日之暮詠二桃李一歌二首 幸宅本

見二翔翔(飛至歌如此)鴫一作レ歌一首

二日攀二柳黛一思二京師一歌一首

攀折堅香子草花歌一首

見二歸鴈一歌二首

夜裏聞二千鳥(ノ)喧一歌二首

帝國圖書館
昭和十二年
寄贈

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

聞曉鴈歌二首

遥聞泝江舩人唱歌一首

三日越中守大伴宿禰家持之舘宴歌三首

八月詠白大鷹歌一首 并短歌

潜鸕歌一首 并短歌

九日作。過漵溪崎見巖上樹歌一首

悲世間無常歌一首 并短歌

後追預作七夕歌一首

暮春詠柳絮歌一首 并短歌

二十日作 詠霍公鳥并花歌一首 并短歌

爲家婦贈在京尊母所誂作歌一首 并短歌

二十三日詠霍公鳥作歌二首

贈京丹比家歌一首

二十七日追和筑紫太宰之時春花梅歌一首

詠霍公鳥歌二首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

四月三日贈越前判官大伴池主霍公鳥歌
不勝感舊之意述懷歌一首并短歌
不飽感霍公鳥之情述懷作哥一首并短歌
四月五日從京師贈來歌一首
詠山振花歌一首并短歌
六日遊覽布勢水海作歌一首并短歌
九日贈水鳥越前判官大伴池主歌一首并
短歌

同日中ニ詠霍公鳥并藤花一首并短歌（歌乎下乖無之ノナキヲヲシキコトヲ）
更怨霍公鳥暁喧歌三首
贈京人歌二首
十二日遊覽布勢水海望見藤花各述懷謌
四首
恨霍公鳥不喧歌一首
見攀折保寶葉歌二首
守大伴家持仰見月光歌一首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

二十二日大伴家持贈二判官久米廣縄一霍公鳥怨恨歌一首 并短歌

二十三日掾久米廣縄和二家持一作歌一首 并短歌

五月六日大伴家持同(追和下)和二)處女墓歌一首 并短歌

贈二京丹比家一歌一首

二十七日大伴宿禰家持孕レ(トラフ)v病作歌一首 并短歌

右大臣家

勝宝元年四月廿八日従二位藤原朝臣豊成拜二右大臣一

藤原二郎之喪慈母(スヒラ)v(ヲ)挽歌一首 并短歌

霖雨晴日作歌一首

見二漁夫火光一歌一首

六月十五日見二芽子花一歌一首

大伴氏坂上郎女従二京師一来賜二女子大孃一歌一首 并短歌

九月三日宴歌二首

幸二吉野宮一時皇后(二字當前)(ヒ官)藤原皇后御作歌一首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

十月十六日餞朝集使少目秦伊美吉石竹
時大伴家持作歌一首
十二月大伴家持雪日作歌一首
三形沙彌贈左大臣藤原北卿歌二首
天平勝寶三年正月二日雪殊多守大伴
宿禰家持館宴歌一首
三日介内藏忌寸繩麻呂館宴樂時大伴家
持作歌一首

同日拯久米朝臣廣縄作歌一首
遊行女婦蒲生娘子歌一首
同日酒酣更深鶏鳴内藏伊美吉繩麻呂作
歌一首
守大伴家持和歌一首
太政大臣藤原家之縣犬養命婦奉天皇歌
一首
悲傷死妻歌一首并短歌

養老元年正月戊申授從四位上縣犬養宿祢三千代從三位○同五年五月乙丑正三位縣犬養宿祢橘三千代縁入道封食封資人優詔不聽○天平五年正月庚寅朔庚戌内命婦皇后之母也○十二月辛酉贈從一位
正三位縣犬養橘宿祢三千代薨遣從四位下高安王等監護喪事賜喪儀准散一位余姉

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

二月二日判官久米廣縄以正税帳應入京
師仍大伴宿祢家持作歌一首
四月十六日大伴宿祢家持詠霍公鳥歌一首
春日祭神日藤原太后賜入唐大使藤原朝
臣清河御作歌一首
大使藤原朝臣清河歌一首
大納言藤原家餞入唐使歌三首
天平五年贈入唐使歌一首 并短歌

天平十二年十一月正六位上藤原朝臣清河授從五位下十三年七月中務少輔十五年五月正五位下同六月大養徳守十七年正月正五位上十八年四月従四位下勝宝元年七月参議

宝字七年正月在大唐使仁部卿正四位下藤原清河兼帯陸奥守八年正月従三位宝亀六年六月癸丑薨贈辛已以正四位下

阿倍朝臣老人遣唐時奉母悲別歌一首
七月十七日越中守大伴宿祢家持遷任少納言作
悲別歌贈貽朝集使掾久米廣縄之宿祢館二首
八月四日内藏伊美吉縄麻呂館設國厨之
餞大帳使大伴家持時家持作歌一首
五日平旦大帳使大伴家持和内藏伊美吉
縄麻呂捧盞歌一首
正税使掾久米朝臣廣縄事畢退任遇越前

皆無人歌下見合一面可改

當改五日平旦上道仍國司次官以下相送于時射水郡大領安努君廣嶋門前之林中設餞宴時大帳使大伴宿祢家持和内藏伊美吉縄麻呂捧盞歌一首

國掾大伴池主館時攵米廣繼誦芳子花作歌一首

大伴家持和歌一首

向京路上依興預作侍宴應詔歌一首 并短歌

爲壽左大臣橘卿預作此歌一首

十月二十二日於左大弁紀飯麻呂朝臣家宴哥三首

天平勝宝四年二月二日聞之

壬申年亂平定以後歌二首

閏三月於衛門督大伴古慈悲宿禰家餞之入唐

天平勝宝四年

副使同胡麻呂等歌二首

高麗朝臣福信遣難波賜酒入唐使藤原

朝臣清河等御歌一首 并短歌

大伴家持爲應詔儲作歌一首 并短歌

天皇太后共幸於大納言藤原卿家時賜黄

葉澤蘭於大納言藤原卿并陪從大夫御歌

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

一首

十一月八日太上天皇於(在後)左大臣橘朝臣宅
肆宴(トヨノアカリ)歌四首

二十五日新嘗會肆宴應詔(応ノ下ニ天ノ字ヲ欠ク)歌六首

二十七日林王宅餞但馬按察使橘奈良麿
朝臣宴歌三首

五年正月四日於治部少輔石上朝臣宅嗣
家宴歌三首

(天應元年六月二日薨伝アリ)

十一日大雪述懷歌三首

十二日侍於内裏聞千鳥喧(ヲ依下)歌一首

二月十九日於左大臣橘家宴見攀折柳條(ヲ)
歌一首

二十三日依興作歌二首

二十五日詠鶴鳴(ル)歌一首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

天平勝寶二年三月一日之暮眺二曙春苑一桃李花作歌二首

春苑紅爾保布桃花下照道爾出立嬬

家持集ハルノソノクレナ井ニホフモノハナナレタテルミチニ

吾園之李花可庭爾落波太禮能未遺有可母

諸本目六ノ二モキヲヨトカリカケル 疑

見飛翔鴫作歌一首

春儲而物悲爾三更而羽振鳴志藝誰田爾加

詞ニ鴫ヲカモリ 義訓

須牟

鴫ヲ今ノ世ニハ秋ノミヨメ共ハ春ニヨメリ 私云鷭鷄雉同田鳥和訓和名抄並出不注云同知其体別又按以田鳥為俗訓定見本朝俗字猶大田二字合作畑

二日攀柳黛思京師歌一首

詩ニ桃之夭々

二首共ニ六帖桃葉ニ出

鴫字旨ニ无拠神社ト同ク和字也 鷭 和名抄禽ノ名之木一曰田鳥也又曰鷭ノ字ニ利 役ノ手ニモ鴫ヲ物アレヒ物ニヨメリ

古今ミワタセハ柳桜ラヲキマセテ都ノ春ノ錦ナリケル

木尺草モワキマヘカケム

春日尒張流柳乎取持而見者京之大路所思

ハルノヒニハルヲハリタルヤナギヲトリモチテミレバミヤコノオホヂオモホユ

攀折堅香子草花歌一首

仙覚云猪ノ「トモ云花紫ノソラニ似タリ

カタカコノハナヲヲリカザセレバミヤコノヒトニアヒタクオモホユ

物部能八十乃嬬等之挹乱寺井之於乃堅香子之花

モノノフノヤソヲトメラガクミマガフテラノヰノウヘノカタカコノハナ

紀氏六帖木ノ部ニ入テカタカレトヨメリ

紫苑道理不分明也古風也定ハカメカコヲ花ニオホメタルヘシ

見帰鴈歌二首

才世ノ世四六ノ世六モノクニモヒツ

越中ノ名処

フルサトノモヒツノクニモヒツ、クモガクレ

燕来時尒成奴等鴈之鳴者本郷思都追雲隠

ツバメクルトキニナリヌトカリガネハモトツクニオモヒツツクモガクレ

春設而如此歸等母秋風尒黄葉山乎不超来

越前守向

ハルマケテカクカヘルトモアキカゼニモミヂノヤマヲコエコサリケム

有米也

一首ノ内三ノ字ハナテノ歟三首セタリ此例後代ハ業平ノ藤ノ折テヌヒツノレイテ折ル事ハ三

シメヤ

春ハ幾日モアラジト思ヘハ

ハルサレバカヘルコノカリ

一云春去者歸此鴈

夜裏聞千鳥喧歌二首

夜ノクルニ斜ニ

ヨノクルニダナニ子サメテヒトリカハ

夜具多知尒寐覺而居者河瀬尋情毛之奴尒

ヨクタチテナクカハチドリタヅネツヘシ

鳴知等理賀毛

夜降而鳴河波知登里宇倍之

ヨクタチテナクカハチドリタヅネツヘシ

許曽人母之

コソヒトモシ

奴比來尒家禮

ノビキニケレ

聞曉鳴鴈歌二首

キヽスノ

夜ノケテ鳥ノ鳴ハ心ホソク面白キ物也

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

楫ノ野部中ニ有ルヘシ
和名ニ楫ヲ用ルハ非ストアリ尻日本紀十五歌
宋紀ニ石上振之神楫トカケリ

スギノ二
相野爾左乎騰流鶏之鳴毛
リヅ カ モ
利豆麻可毋
アレビキノ ヤツヲ ノ キヾスナキトヨムアサケノカスミミレバカナシレ
足引之八峯之雉鳴響朝開之霞見者可奈之
モ
毋

遥聞ニ サカノホルニ
遥聞浙江船人唱歌一首
キケバ ハルケシ イミヅガハ アサコギヅレバ ツヌラフナ
朝床爾聞者遥之射水河朝己藝思都追唱船
ヒト
人

土佐日記ニ舟カケトリハナヤ歌ヲタテテ何トモ思ヘラス其ヲタヲ考ハ春ノ野ニテン音ヲハナノワカヾキニテチヨキルヽ
ツンスルナラ親ニマモルラムコヲトメヤクラムカヘラヤ 廻部ノ来ラソラユトラレテオヰノリワサラレテ鉄モモテコ
スラノタニコラゴレナラスオホカ トカス

十七丗七
三日守大伴宿禰家持之舘宴歌三首

新古春下 永持
三月曲水
本朝ニテハ顕宗紀始

ケフ ノ タメト オモヒテレメヤ アシビキノ ヲノヘノ サクラ カク サキ
今日之為等思標之足引乃峯上之櫻如此開
ニケリ
爾家里
オグラノヤマニ
奥山之八峯乃海石榴都婆良可爾今日者久
ヤツヲ ツバキツ ラカニケフ ハ アビク
良佐禰大夫之徒
サヲ ヲスラノ トモ
漢人毛桟浮而遊云今日曽和我勢故花縵世
カラヒトモ フヲウカベテ アソブテフケフ ソ ワガ セコ ハナカヅラセ
余
奈宮 奈良

八日詠白大鷹歌一首 井短歌
ニ キ
アレビ ノ ヤマサカコエテ ユキカヘルトレノヲ ナガク
安志比奇能山坂超而去更年緒奈我久
カヘル

都中守佐ラテ下リシ時ヨリ乃ち云ヘリ
十三十九七丈
十八丗 ニナサカ
廣ク十七四十四尺具引仁徳紀 越宮 阿

老仁伱誰 ホかモ我ヒ
誤比佐ゑ今

石城野 和名 新川郡

ルコレ、ニ　ニ助ス　メバ　オホキミノ　シキマスクニハ　ミヤコヲ
モコ、モ　ヰ　同ヲオヤト云證ト　コ、ロニ　ハ　オモノモ　ノカ　ラ　コトバ世波カリ
母此間毛於夜自等心爾波念毛能可良語左
ケミ　見テ愁ラサクルベ　ル　ヒトメ　トモレミトオ　モ　ヒ　レ助　ニゲレソ　コ　ユ　エ
氣見左久流人眼之等於毛比志繁曽已由恵
ニコ、ロナ　グ　ヤト　アキツケバ、　ギ　サキニ　ホ　フイハ世　ノ
爾情奈具也等秋附婆尋子開爾保布石瀬野
ニウマ、タグルキメヅチコイクリベ　キ　テヲチコ　ニ　トリフミ　タテくレラヌリ狩ラスル時ベ
爾馬太伎由吉乞乎知許爾鳥布美立白塗
ノ仁徳ニスベモユラニアハセヤリフリサケミツ
之小鈴毛由良爾安波勢也里布里左氣見都
ツイキ　ドホル憤コ、ロノウチヲキモヒノベウレレ
追伊伎騰保流許已呂能宇知乎思延宇禮之
ニガラミラクツ二世九三六ヤノ　ウチニト堺グラユヒスエ
備奈我良枕附都麻屋之内爾鳥座由比須恵

神中ニ多シ
テヅカカフエレラク　ノ　タカ　鷹
氐曽我飼真白部乃多可
真白部ヘ神
又謌
ヤナカメノ　ロノ
矢形尾乃麻之路能鷹乎屋戸爾須恵可伎奈
デミツ、カハクレヨレモ
泥見都追飼久之余志毛
潜鸕歌一首　并短歌　宦ノ時目
ウ
アラタヘノ　トレユキカヘリハルサレバ　ハナノミニ　ホフクシビキ
荒玉能年往更春去者花耳爾保布安之比奇
ノヤマヒヲチナガルサキタヘ　越中ニ
能山下響逝多藝知流辟田乃河瀬爾年魚兒
サハニリレツドリウカヒトモ　伴
狭走島津鳥鸕養等母奈倍可　舞ガリサレナゾ　知名
我理左之奈津　頭河

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

左比由氣波吾妹子我可多見我氏良等紅之
（佐阿比）（ユケバワギモコガカタミガテラト）（クレナヰノ）
八塩爾深而於已勢多流服之襴毛等寶利氏
（ヤシホニソメテオコセタル）（コロモノスソモトホリテ）
濃禮奴
（ヌレヌ）
（一本時ハ未古郷ニ妻ノカテオコセタル衣ナルヘシ）
（一本遣ノ字過仙宮）

反歌

紅衣爾保波之辟田河絶已等奈久吾等看牟
（クレナヰニホハシサキタガハタエヘトナククレ）（眷ノ字カヘリミム）
（トレノハニアユヒ助ハレレバサキタガハウヤツヘカ今落ノ字ツヘテ）
毎年爾鮎之走婆左伎多河鷭八頭可頭氣氏
（カハセタヅヲムツヘカヅケテ）
河瀬多頭禰牟

長短合廿首惣計

季春三月九日擬出擧之政行於舊江村道
（キノ京師太政官ニノ行ル政ヘシテシテソノ位国ニ行ルエノ射水郡ニノ）
（ニ）

上屬目物花之詠并興中所作之歌

（ツマ未詳）

過澁溪埼見巖上樹歌一首 樹名都萬麻
（ニ）（ノ）（ニ）（ヲ）（ツマ）（ト）

礒上之都萬麻乎見者根乎延而年深有之神
（イソノウヘノツマヲミレバネヲハヘテトシフカクシ）（カミ）
佐備爾家里
（サビニケリ）

悲世間無常歌一首并短歌
（カナシキヨノナカハツネナキモノト）（カタリツギナガ）

天地之遠始欲俗中波常無毛能等語續奈我
（アメツチノトホキハシメヨノナカハツネナキモノトカタリツギケミ）（ナガ）
良倍伎多禮天氣見婆照月毛盈昃之
（ラヘキタレアメノハラフリサケミレバテルツキモミチカケシ）
家里安之比奇能山之木未毛春去婆花開爾
（ケリアシビキノヤマノコヌレモハルサレバハナサキニ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

保比秋都氣婆露霜負而風交毛美知落家利
ホヒアキツケバツユジモオヒテカゼニジリモミチリケリ
宇都勢美母如是能未奈良之紅能伊呂母宇
ウツセミモカクノミニシクレナヰノイロモウ
都呂比奴婆多麻能黒髪變朝之咲暮加波良
ツロヒヌバタマノクロカミカハリアサノヱミユベカハラ
比吹風能見要奴我其登久遊水能登麻良奴
ヒフカゼノミエヌガゴトクツ子モナクウツロフミレバニハタヅミ
其等久常毛奈久久宇都呂布見者爾波多豆美
ナガルヽナミダトドメカ子ツモ
流涕等騰米可禰都母

反歌

言等波奴木尚春開秋都氣波毛美知遷良久
コトヽハヌキスラハルサキアキツケバエミヂヽラク

波常乎奈美許曽
ハツ子ヲナミコソ
一云常無牟等曽
ツ子ナケムトゾ
宇都世美能常無見者世間爾情都氣受氐念
ウツセミノツ子ナキミレバヨノナカニコヽロツケズテオモフ
日曽於保伎
ヒゾオホキ
一云嘆日曽於保吉
ナゲクヒゾオホキ
豫作七夕歌一首
カ子テ(四五月ノ作ナヘシ)ノ
イモガソデワレミラクカハノセニキリタチワタレサ
妹之袖和禮見良久河湍爾霧多知和多禮左
欲布氣奴刀爾
ヨフケヌトニ
(手五ミニ有宜水世ミ作レリ万葉ニ此下ミ梅柳タヾト共ニ万ノ護可手トヨメル句ヲ加ヘタリ)
時ミ世廿三

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

慕振勇士之名歌一首 并短歌

知智乃寶乃父能義許等波播蘇葉乃母能美
已等於保呂可爾情盡而念良牟其子奈禮夜
母大夫夜無奈之久可在梓弓須惠布理於許
之投矢毛知千尋射和多之釼刀許思爾等理
波伎安之比奇能八峯布美越左之麻久流情
不障後代乃可多利都具倍久名乎多都倍志
母

反歌

大夫者名乎之立倍之後代爾聞繼人毛可多
里都具我禰

右二首追和山上憶良臣作歌

詠霍公鳥并時花謌一首 并短歌

毎時爾伊夜目都良之久八千種爾草木花左
伎喧鳥乃音毛更布耳聞眼爾視其等爾宇
知歎之奈要宇良夫礼之努比都追有爭波之

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

霍公鳥之生卵之中ニ
李嘉祐詩山木晴ニ
殘春ニ
郭九霄之生卵之中ニ
霍公鳥独所生ニ哉

爾許能ニ 五月ノ木ノ下闇ノ 暗ケクニ 隠レ 晩 ニ 聞ウヅキ 能 ニ 而 タ行バ
公鳥從古昔可多理都藝都流鶯之宇都之眞
ギス ムカシヨリカ タリツギツル ウグヒスノ 現在ノ眞実ノ子ヲ平ト思ヒ 現 久脱チヲ仕ウクシコカテ
子可母菖蒲花橘乎嬬嬬良我珠貫麻泥爾赤
子 サスヒルハ シ 終日メヅラシ 心モ 七十二 而 アレ ビ キノ 律ノ化 ヤツヲ トビコエヌ
根刺畫波之賞良爾安之比奇乃八丘飛超夜
ベタニノヨルハスガラニ アカツキノツキニ ムカヒテ ユキカヘリナキト 雖
于玉之夜者須我良爾曉月爾向而往還喧等
ヨ 令 聲 ドイカバ アキタラム
余牟禮杼何如將飽足

反歌二首

トキゴトニイヤメヅラシク サクハナヲ
毎時彌米頭良之久咲花乎折毛不折毛見良
クシ 助ヨシモ
久之余志母

右二十日 雖未 及時 依興豫作也
ノ 坂上大嬢也 ル カ ニ ハ ト ニ リ ニカヲテ

為家婦贈在京尊母所誂作歌一首并短歌
ニ ル ニ 勅撰ニ非ル證ス 大伴坂上郎女也 ヘ ル

霍公鳥來喧五月爾咲爾保布花橘乃香吉於
ホトトギス キナク 喧 良 ツキニ サキニ ホフ ハナタチバナノ カヲ甚シ 香 ヲ 吉 ミ 於 ニ 久毎 ヘ
夜能御言朝暮爾不聞日
ヤノミコトアサヨヒニ キカヌヒ
夾爾之居者安之比奇乃
ヒ十二 ニ 助ヲレバ アレビキノ
山乃多乎里爾立雲
ヤマノタヲリニ タツクモ 山カヒメクリ

笑 宮

ヲ越中ヨリ都ノ方ヲ
乎余曽能未見 都追嘆蘇良夜須家久奈久尓
オモフソラ クルシキモノヲ ナゴノアマノ カヂキトルテフシラ
念蘇良苦伎毛能乎 奈呉乃海部之潜取云真
タヘノミガホレミ キモワタヤスノ迫
珠乃見我保之 御面多太向将見時麻泥波松
カヘノサカエイマサ子 タヅトキアガキミ
柏乃佐賀延伊麻佐禰尊安我吉美 御面謂之
カヤ神代紀 抱朴子云天陵偃蓋之松大谷倒生之柏凡此諸木皆与天永其長与地等其久也 松祥容又字亦作樅見唐韻和名萬豆 柏一名槲 槲本草云柏実柏音百一名槲子槲音斛和名加閉
反歌一首
白玉之見我保之君乎不見久爾夷尓之乎禮
バイケルトモナシ
婆伊家流等毛奈之
二十四日應立夏四月節也因此二十三日
ナヒ廿三十八十三

之暮忽思霍公鳥暁喧 作歌二首
ツヒビトモオキツヽキクゾホトヽギスナクハツコエ
常人毛起都追聞曽霍公鳥此暁尓来喧始音
ホトヽギスキナキトヨマバクサトラムヤドニハ
霍公鳥来鳴響者草等良牟屋戸尓波
ウエズテ
不殖而 家持ノ妹ナト有テ卅比家ニ嫁レタリケル歟下ニモ
少名集云ハミノ大宮ニ物キコエヌ三四月ニ郭公ノ声ヲ二人カラキヽタリケルホトヽオロカニ成玉ヒテ
ハキニシニメカハヌ心地コソス」
贈京丹比家歌一首
イモヲミズコノクニベニトヒフレバワガコロドノナグル 左卅九ノ
妹乎不見越國敝爾経年婆吾情度乃奈具流
ヒモナシ 利心トモ同サトキ心モ同
日毛無
追和 橘花梅謌一首
テス 花半

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

春裏之樂終者梅花手折可（ハルノウチノ　タノシミヲヘバ　ウメノハナタヲリテカ）

（タノシキハテハ中院）

右一首二十七日依興作之（ニ廿九テ　ニ）

詠霍公鳥歌二首（ホトヽギス　イヽキ　ナキソム　アヤメグサカヅラクヽデニカ）

霍公鳥今來喧曾無菖蒲可都良久麻泥爾加（ホトヽギス　イマキ　ナキソム　アヤメグサカツラクヽデニカ）

（ルヽヒアラメヤ）

流流日安良米也　毛能波之三箇辭闕之（ワガカドユ　ナキスギワタルホトヽギス　イヤナツカシク　キケド）

我門從喧過度霍公鳥伊夜奈都可之久麻泥（アキタラズ）

飽不足　毛能波之三箇辭闕之

（是ホ書ノ助詞ノ焉哉乎也ノ歟ニテ此字ナクテハヨミ難シ）

四月三日贈越前判官大伴宿禰池主霍公（マヘツキミトヒト）

鳥歌不勝感舊之意述懷一首并短歌（ホトヽギス　ウタノカツガツ　フルキヲシヌフ　ココロヲモ　ノベタルヘヽ　ヒトツ　ナガウタト　ミジカウタト）

和我勢故等手携而曉來者出立向暮去者（ワガセコト　テタヅサハリテアケクレバ　イデタチムカヒユフサレバ）

放見都追念鴨見奈凝之山爾八峯爾波霞多（サケミツヽ　キモフカモミ　ナ　ギリカ　レヤヽニ　ヤツヲニハ　カスミタ）

奈婢伎徃鶏敲爾波流乃（ナビキ　タニベニハツバキ　ハナサキウツロフ　ガナヽレハルノ）

者霍公鳥伊也之伎喧奴獨耳闇婆不怜毛君（ホトヽギス　イヤヽシキナキヌ　トリノミキケバ　サビシクモ　キミ）

與吾隣而戀流利波山飛超去而明立者松之（トワレヘダテヽ　コフルヘニ　ヤマヽトビコエユキテ　アケタテバ　マツノ）

佐枝爾幕去者向月而蒿蒲玉賀麻泥爾鳴等（サエダニ　コヌサレバ　ツキニムカヒテ　アヤメグサ　タマガマデニ　ナキト）

余米安寢不令宿君乎奈夜麻勢（ヨメ　ヤスイシナサヌ　キミヲナヤマセ）

（君モ時々ノ酒ヲキヽテ徒ニ出ン往ミ）

（ヤスイシメデ）

（ハルノウチノ　タノシミヲヘバ　ウメノハナタ　ヲリテカ）

（タノシキハテハ中院）

右一首二十七日依興作之（ニ廿九テ　ニ）

詠霍公鳥歌二首（ホトヽギス　イヽキ　ナキソム　アヤメグサカヅラクヽデニカ）

霍公鳥今來喧曾無菖蒲可都良久麻泥爾加（ホトヽギス　イマキ　ナキソム　アヤメグサカツラクヽデニカ）

（ルヽヒアラメヤ）

流流日安良米也　毛能波之三箇辭闕之（ワガカドユ　ナキスギワタルホトヽギス　イヤナツカシク　キケド）

我門從喧過度霍公鳥伊夜奈都可之久麻泥爾（アキタラズ）

飽不足　毛能波之三箇辭闕之

（是ホ書ノ助詞ノ焉哉乎也ノ歟ニテ此字ナクテハヨミ難シ）

四月三日贈越前判官大伴宿禰池主霍公（マヘツキミトヒト）

鳥歌不勝感舊之意述懷一首并短歌（ホトヽギス　ウタノカツガツ　フルキヲシヌフ　ココロヲモ　ノベタルヘヽ　ヒトツ　ナガウタト　ミジカウタト）

和我勢故等手携而曉來者出立向暮去者（ワガセコト　テタヅサハリテアケクレバ　イデタチムカヒユフサレバ）

放見都追念鴨見奈凝之山爾八峯爾波霞多（サケミツヽ　キモフカモミ　ナ　ギリカ　レヤヽニ　ヤツヲニハ　カスミタ）

奈婢伎徃鶏敲爾波流乃（ナビキ　タニベニハツバキ　ハナサキウツロフ　ガナヽレハルノ）

者霍公鳥伊也之伎喧奴獨耳闇婆不怜毛君（ホトヽギス　イヤヽシキナキヌ　トリノミキケバ　サビシクモ　キミ）

與吾隣而戀流利波山飛超去而明立者松之（トワレヘダテヽ　コフルヘニ　ヤマヽトビコエユキテ　アケタテバ　マツノ）

佐枝爾幕去者向月而蒿蒲玉賀麻泥爾鳴等（サエダニ　コヌサレバ　ツキニムカヒテ　アヤメグサ　タマガマデニ　ナキト）

余米安寢不令宿君乎奈夜麻勢（ヨメ　ヤスイシナサヌ　キミヲナヤマセ）

（君モ時々ノ酒ヲキヽテ徒ニ出ン往ミ）

（ヤスイシメデ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

反歌

吾耳聞婆不怜毛霍公鳥卅生之山邊爾伊去
ワレノミキケバ サビシモ ホトトギス ミブノヤマベニ イユキ ナクニモ

鳴爾毛
ホトトギス ヨナキシツヘクワガセコガメコロアレ

霍公鳥夜喧乎爲管我世兒乎安宿勿令寐由
ホトトギス ヨナキヲシツヽワガセコヲ ヤスイナサスナユメ

米情在
コヽロアレ

不飽感霍公鳥之情述懷作歌一首并短歌
アカヌカナ ホトトギスノ ココロヲ ノベテヨメル

春過而夏來向者足檜木乃山呼等余米左夜
ハルスギテ ナツキムカヘバ アシビキノ ヤマヨビトヨメサヨ

中爾鳴霍公鳥始音乎聞婆奈都可之鳴蒲花
ナカニナクホトトギス ハツコヱヲ キケバナツカシ アヤメグサハナ

母尚之努波由
タチバナヲ ヌキマジヘカヅラ ヌクマデニ サトトヨミナキワタレドト

橘乎貫交可頭良沼久麻而爾里響喧渡禮騰
モナホシノバユ

反歌三首

左夜深而暁月爾影所見而喧霍公鳥聞者夏
サヨフケテ アカツキヅキニ カゲミエテ ナクホトトギス キケバナツカシ

借
カヒ

霍公鳥雖聞不足網取爾獲而奈都氣奈可禮
ホトトギス キケドモアカヌ アミトリニ トリテナツケナカレ

受鳴金
ホトトギス カヒトホセラバ トレヘナヅ

霍公鳥飼通良婆今年經而來向夏波麻豆將鳴
ホトトギス カヒトホセラバ コムカハフ イトヒテムカフ ナツハマヅナキ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

ナムヲ
喧乎

從京師贈來歌一首

ヤマブキノ ハナトリモチテ ミツレドモ
山吹乃花執持而都禮毛
レノビツルカモ
之努比都流可毛

下云贈京人歌二首此和之

右四月五日從留女之女良所送也

詠山振花歌一首并短歌

ウツセミト ヨノヒトナカラ
宇都世美波 戀繁 登
ヨギテ ヌリモ
縁而 塗 不折毛 毎見情奈
ミルゴトニコロナ
疑牟 等 繁山之

六帖第恒足引ノ山ノ山吹山ナラス花サカリミアク人モナシ
拾遺雜戀世中ハ多クシテヤマシ山ケ山ノ青ク枝ノヒルヒルメニナシ
古今ツク山ハ山ヒケ山ヒケヘト君カ御法ニクカ久ナシ

家集音モセテ谷ヲトレル山吹ハ八尺ノチナレ色ニノ有ケル 貫之

古事記仁德オキベニハヲフ子ニフレク

月案文选

ベニ オフル ヤマブキノ ヤドニ ウエテハ ミルゴトニ
敝爾生流 山吹乃 屋戸爾 植而波 見其等
ヒキウエテ アサツユニ ニホ
爾引植而朝露爾仁保
ヘル ハナノ ミルゴトニキモヒハ ヤマデ コヒコソ
敝流花乎毎見念者不止戀志繁母

江家 人加筆

反詠 謌中

ヤマブキノ ヤド ニ ウエテ ハ ミルゴト ニ
山吹乃 屋戸 爾 植而 波 見其 等 爾
オモヒハ ヤマズ コヒ
念者 不止 戀

木ノ下番ノ如ク思ノカカリテレケキ ノト云心同見

六日遊覽布勢水海作歌一首并短歌

オモフド チ ニスタノコノ ヨクレニシ
念度 知 大夫能 許能 久禮尓
アキラメ コヽロ
飽 情

山吹ノ恩アリ

ヤマブキノ ハナニ ミニケル ヒトヲ ダニ
山吹乃 花爾 見爾家流 人乎 谷
ヤマ ブチツラナメ ヤマ カ ヘ イ
也 良奈米 山 可 權 伊

ミテキノ月案文选

古事記仁德オキベニハヲフ子ニフレク

家集音モセテ谷ヲトレル山吹ハ八尺ノチナレ色ニノ有ケル 貫之

六帖第恒足引ノ山ノ山吹山ナラス花サカリミアク人モナシ
拾遺雜戀世中ハ多クシテヤマシ山ケ山ノ青ク枝ノヒルヒルメニナシ
古今ツク山ハ山ヒケ山ヒケヘト君カ御法ニクカ久ナシ

ナムヲ
喧乎

從京師贈來歌一首

ヤマブキノ ハナトリモチテ ミツレドモ
山吹乃花執持而都禮毛
レノビツルカモ
之努比都流可毛

下云贈京人歌二首此和之

右四月五日從留女之女良所送也

詠山振花歌一首并短歌

ウツセミト ヨノヒトナカラ
宇都世美波 戀繁 登
ヨギテ ヌリモ
縁而 塗 不折毛 毎見情奈
ミルゴトニコロナ
疑牟 等 繁山之

六帖第恒足引ノ山ノ山吹山ナラス花サカリミアク人モナシ
拾遺雜戀世中ハ多クシテヤマシ山ケ山ノ青ク枝ノヒルヒルメニナシ
古今ツク山ハ山ヒケ山ヒケヘト君カ御法ニクカ久ナシ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

カケイ(今俗コギメグレバヲ)ノウラニ カスミタナビキ
可氣伊許藝米具禮婆乎布能浦爾霞多奈妣
キタル(越中)ニメニ フギナミサキテハヤキヨク シラナミサワギ シクシクニ(シバノ)シラメヤモ カクレコ
伎流(越中)麻爾藤浪咲而濱淨久白浪左和伎及々
コヒハマサレドケフノミアキタラメヤモ カクレコ
爾戀波未佐禮杼今日耳飽足米夜母如是已
ソイヤトシノハニ ハルバナノ モミヂルトキニ(アキサカリニ)
曾彌年能波爾春花之繁盛爾秋葉能黃色時
ニアリガヨヒミツヽシノバメコノフセノウミ
爾安里我欲比見都追思努波米此布勢能海
ヲ(江說宜乎)

反歌

(本先之以御本加書之宜)

フギナニ ハナノサカリニ カクシ(助)コソ
藤奈美能花盛爾如此許曾浦已藝廻都追年
(轉仁德紀)タミツヽトシ

ニシノバメ
爾之努波米

和名集云糸雅注云鷿鷉水鳥也

贈(ルウヲ)水烏越前判官大伴宿禰池主歌一首 并

短歌

アヽサカルヒナト シ(助)アレバソコモ
天離夷等之在者彼所此間毛同許已呂曾離
サカリトシノヘニハモノオモヒシゲシソ
家等之乃經去者宇都勢美波物念之氣思曾
コユエニコヽロナグサニホト、ギスナクハツコエヲタチバナノタヽ
許由恵爾情奈具左爾霍公鳥喧始音乎橘珠
ニアヘ(相貫)ヌキカヅラキテタバルベシ(笛)モ(向)ヘスラヲ、
爾安倍賀可頭良伎氐遊波之母(愛)麻須良乎乎、
トモ(宜之)ナヒト(一通)ヘタテヽ シクラ(越之郡ニ)ガハナヅ サヒノボリニラセ(行ニ)ニ
等毛奈倍立而叙羅河奈頭左比沂平瀬爾

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

波左泥刺渡早湍爾波ハサヲデサシワタレハヤセニハ乎鳥乎潜都追月爾日
爾之可志安蘇婆禰波キシカシアソバヲハエ愛
叙羅河湍乎尋都追和我勢故波宇河波多多
伎無氣念之念婆オモヒシ思ヲ

右九日附使贈之

詠霍公鳥并藤花二首 并短歌

呼等米尓
尓ハ今ニテ来ト下ニ
ニソヨビトヨメニヤ
呼等余米

モノハナクレナヰイロニ ホヒ
桃花紅色爾保比多流面輪能宇知爾青柳
ノホソキマユコヲ エミマガリ アサカゲニ ラトメラガ
乃細眉根乎咲麻我理朝影見都追孃嫦良我
手爾取持有真鏡盖上山爾許久礼晩ノ禮乃繁渓
邊乎呼等米来イニ アサトビワタリユフヅキヨカス渡ク
波流ゞニナクホトトギス タチクル藤波ヲヨビ
遥遥爾喧霍公鳥立久等羽觸爾知良須藤
浪乃花奈都可之美引攀而袖爾古伎禮都禮
婆深等母
霍公鳥鳴羽觸爾毛落爾家利盛過良志藤奈

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

美能花

一云落奴倍美袖爾古伎禮都藤浪乃花也

同九日作之

更怨霍公鳥晴晩歌三首

霍公鳥喧渡奴等告禮騰毛吾聞都我受花波

須疑都追

吾幾許斯奴波久不知爾霍公鳥伊頭敞能山

乎鳴可将超

月立之日欲里乎伎都追敲自努比麻低騰伎

奈可奴霍公鳥可母

贈京ノ人ニ歌二首

妹爾似草等見之欲里吾標之野邊之山吹誰

可手乎里之

都禮母奈久可禮爾之毛能登人者雖云不相

日麻禰美念曽吾爲流

右爲贈留女之女郎所誂家婦作也

女郎者即大伴家持之妹

十二日遊覧布勢水海船泊於多祜湾望見藤花各述懐作歌四首

藤奈美能影成海之底清美之都久石乎毛珠等曽吾見流

守大伴宿禰家持

多祜乃浦能底左倍爾保布藤奈美乎加射之氏将去不見人之為

次官内藏忌寸繩麻呂

伊佐左可爾念而来之乎多祜乃浦爾開流藤見而一夜可經

判官久米朝臣廣繩

藤奈美乎借廬爾造湾廻為流人等渡不知爾海部等可見良牟

久米朝臣繼麻呂

恨霍公鳥不喧歌一首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

拾遺　久米廣縄イヘニユキテ一書モナカラム
六帖同之

イヘニユキテナニヲカタラムアレビキノヤマホトトギス

[redacted]爾去而奈爾乎將語妹　一書モナカラム
ヒトコヱモナケ　若カラムハ家ニ帰リテ語ルヲカキトベ

一音毛奈家

判官久米朝臣廣繩

見攀折保寶葉歌二首　阿黎ニ九ハト点セリ可用仁徳紀訓同之仍茶物語ニ松葉ヲモカシハトヨメリ百葉心ヲ葉守ノ神トイルモカシハ本トメイルヨリ久ハ一切ノ葉ヲ寺トイヘル心乎

ワガセコガサンデテモタルホオノハヲカアヲキヌガサ　令義解ニ六儀制令

加青蓋　諸国ノ国分寺ニアリ延喜式ニ蕃式

講師僧恵行　ノホウシ

スメロギノトホキミヨミヨヘテハイツヒサケノムトイフ

皇祖神之遠御代三世波射布折酒飲筮伊布　神代ヨリ王代ノ今自近キヲヒサケノムトイフ国ノミヲヲ面心

ソコノホトヽガミハ曽此保寶我之波　本朝式曰十一月一辰日宴会其飲器多設以上朱漆椀五位以上兼椀加蹈久保天紀葉盤八枚此羅列

曽此保寶我之波

守大伴宿禰家持

還時濱上仰見月光歌一首

カヘルヒノハマニアガテミルツキヨアキテムブタニヲサレテワガユクコノハニツモヨ

之夫多爾乎指而吾行此濱爾月夜安伎氐

馬之未時停息　江

守大伴宿禰家持

二十二日贈判官久米朝臣廣繩霍公鳥　官本乃駒共元之

歌悪恨歌一首并短歌

才十三カヌツ由青垣山トヨメル類也家近ク垣ノ如クアル谷也
又播方風土記曰香山里(おなじ)来基(もと)○家内谷(いへうち)是香山之谷形如垣(かき)廻故号家内谷(いへうち)

才六イサナトリ海カタツキノ東歌集足引ノ山カタヘニアル住居ニマツ人サキミワカナラシツム

此間爾之氏曽我比爾所見和我勢故我垣都
ノタニ、アケサレバ(明)能谿爾安氣左禮婆(明)禮婆(明)
ノベニハ(明)ク(明)ニ ナクホト、ギス 之繁美爾遥遥爾鳴霍公鳥吾屋戸能殖木橘
ハナニ チル トキヲ イマダシミ(未)レ 花爾知流時乎麻多之美伎奈加奈不久曽許波
ウラミズレカレ ドモタニカ(六四十六ナベ)ツ キ、ツ、ツゲナクモウレ 不恋之可禮杼母多爾可都氣奴礼婆伎氏家居有君之
聞都都追氣奈久毛宇之

反歌一首

ワガコ、タニ テドキ ナカヌ ホトト、ギスヒトリキ、ツ、 吾幾許麻氏騰来不鳴霍公鳥比等里聞都追

統十雑体ヨミ人不知又手共ニ出

ツガヌキニカモ 不告君可母

詠霍公鳥歌一首并短歌

タニチカクイヘハヨレド 多爾知可久伊敝波乎禮騰母許太加久氏佐
トハアレドモホト、ギス 刀波安禮騰母保登等藝須伊麻太伎奈加受
ナクコエヲキカマホシ(未)ク 奈久古衣乎伎可麻久思理登安志太爾波可
奈久許恵乎伎可麻久氏保理
ドニイデタチユフベニハ 慶爾伊氏多知由布敝爾波多爾乎美和多之
コフレドモヒトコエダニモ 古布禮騰毛比等古恵太爾母伊麻太伎巳要
受

フヂナミノレゲリハスバ
敷治奈美乃志氣里波須疑奴安志比紀乃夜
ホトヽギスナドカキ
麻保登等藝須奈騰可伎奴夜奈賀奴

右二十三日拯久米朝臣廣繩和

追和 大和物語ニ委
ヲヒテ
ヲヒテ
ヲヒテ
ヲヒテ

努平登古宇奈比壯子乃宇都勢美能名乎競
ソフト タヽキハルイノチモ ステヽ アラソフニ ツヽドヒレケル ヲトヽ
爭登玉剋壽毛須底氏相爭爾嬬問爲家留嬬
メラガ キケバ カナシサ ハルバナノ ニホヘト通ズルヲカエテアキノハノ
嬬等之聞者悲左春花乃移盛而秋葉之

ニホヒニテレル ツレキミノ
爾保比爾照有惜身之荘尚大夫之語勞美父
ハヽニヨシロカレテイヘサカリトタヽ ニイデタチアサユフニミチクルニホヒ
母爾啓別而離家海邊爾出立朝暮爾蒲來潮
ノヤヘナミニナビクタヽモノ 藻ノフシ
之八隅浪爾靡珠藻乃節間毛惜命乎露霜之
スギ過ヽ ニケル流ル涙ヲキヨヽ
過麻之爾家禮與墓乎此間定而後代之聞繼
ヒトモイヤトホニミノビ
人毛伊也遠爾思努比爾熱
カサニケラニオヒテナビケリ
賀左志家良之生而靡有
ヲトメラガノチノミルレトツゲヨ
乎等女等之後能表跡黄楊小櫛生更生而靡
ケラシモ
家良思母

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

フヂナミノ　ケリハスギ
敷治奈美乃志氣里波須波須疑奴安志比紀乃夜
ホト、ギスナドカキナ
麻保登等藝須奈騰可伎奈賀奴

右二十三日拯久米朝臣廣繩和

追和處女墓歌一首并短歌

古爾有家流和射乃久須婆之伎事跡言繼知
努乎登古宇奈比壯子乃宇都勢美能名乎競
爭登玉剋壽毛須底氏相爭爾嬬問爲家留嬬
嬬等之聞者悲左春花乃爾太要盛而秋葉之

爾保比爾照有惜身之壯尚大夫之語勞美父
母爾啓別而離家海邊爾出立朝暮爾蒲來潮
之八隅浪爾靡珠藻乃節間毛惜命乎露霜之
過麻之爾家禮與墓乎此間定而後代之聞繼
人毛伊也遠爾思努比爾勢餘等黃楊小櫛之
賀左志家良之生而靡有
乎等女等之後能表跡黃楊小櫛生更生而靡
家良思母

右五月六日依興大伴宿禰家持作之

安由乎疾美奈呉能浦廻爾與須流浪伊夜千
重之伎爾戀渡可毋

右一首贈京丹比家

挽歌一首 并短歌

天地之初時從宇都曾美能八十伴男者大王
爾麻都呂布物跡定有官之在者天皇之命
恐夷放國乎治等足日木山河阻風雲爾言者

雖通正不遇日之累者思戀氣衝居爾玉桙之
道求人之傳言爾吾爾語良久波之伎餘之君
者比來宇良佐備氐嘆息伊麻須世間之厭家
口都良家苦開花毛時爾宇都呂布母都勢美
毛無常阿里家利足千根之御母之命何如可
毛時之波將有乎真鏡見禮杼母不飽珠緒之
惜盛爾立霧之失去如久置露之消去之如玉
藻成靡許伊卧迩水之留不得常柱言哉人之

イヒツル サカゴトヲ ヒトノツゲツル アツサユミツニヨル オトノ
云都流逆言乎人之告都流梓弓乃夜音之
オトニモ キケバ カナレミ ニハタヅミ ナガレテミダト メカ引子ツ
遠音毛聞者悲彌庭多豆水流涙留可禰都母
ワレハ
吾者

反歌二首

トホオトニモキミガ ナゲクトキヽツレバ チニノミシナカユ
遠音毛君之痛念跡聞都禮婆知尓乃未死名加由
イタメ
ヨノナカノ ツネナキコトハ シルラムヲ コロツクスナニ スラヲヨニシテ
世間之無常事者知良牟乎情盡莫大夫爾之而
氏

右大伴宿禰家持悼亡妾作歌

トラヲ
右大伴宿禰家持悼亡妾作歌

豊成ノ
右大臣家藤原二郎之喪慈母患也五月二十七日

未詳

霖雨晴日作歌一首

ハナヲ クタス ナガメノ
霖雨晴日作歌一首

ウノ
宇能花乎令腐霖雨之ミヅバナニヨル俗ニ水ノ出花トス始ハナトス云ヒ誤ナリ
始水遊縁木積成將因

コモガモ
兒毛我母

カヘル処有ニ
兒毛我母

見漁夫火光歌一首

ミヤコヒシクトアマノ トモセルイザリビ
見漁夫火光歌一首

ワガ ミタモトヒヲ
旅衝等海人之燭有伊射里火之吾之下念乎

右二首五月廿日ヲ晩ヒ作ル

右二首五月

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

龍神ハ珠ヲ貪ル愛スル者ヲ

ワガヤドノ　ハギ　サキニケリ　アキカゼノ　フカム　ヲ　イトトホミカモ　マタバ

吾屋戸之芽子開爾家理秋風之将吹乎待者伊等遠彌可毋

右一首六月十五日見芽子早花作之

従京師来贈歌一首并短歌

ワタツミノ　カミノミコト　ノミクレグニ　財ヲ　クハヒ　ヒト　遍キキテイツクトトモ　ラ

和多都民能可味能美許等乃美父之宜爾多久波比於伎氏伊都久等布多麻爾未佐里氏

オモヒ　ニ　変　リニアガコニハアレドヲソセミノ

於毛敞里之安我故爾波安禮騰宇都世美乃

ヨノコトワリト　カ持ス　テヨ　ノ　ヒ六甲三十ノ　ニ　ニ

與能許等和利等麻須良乎能比伎氏比久等麻爾麻

坂上大嬢ハコトシ勝宝三年ノ春ト云ヘリトミユ

ニ　ヒ十七廿六サカルコ越ヒチヲサ

爾之奈謝可流古之地乎左之氏波布都多能

ワガ　ヒ二助ヒヨリ　ミ　ト外通ワト通タワムミヨスムヒナヅ　ヒ　ヒ　ヒ

右二首大伴氏坂上郎女贈二女子大孃一也
（勅撰ナラバ有ベキ字ニ）

九月三日宴歌二首

許能（家特集）之具禮（コレグレ）伊多久（イタク）奈布里（ナフリ）曾和藝毛（ソワギモ）故爾美（コニミ）
（母ムガタメニ）勢牟（モミヂトリ）我多米（テム）

右一首拯久米朝臣廣繩（廣縄ニ云）作之

安乎爾與之（アヲニヨシ）奈良比等（ナラビト）等美（トミ）夜麻登和我世（ヤマトワガセ）故我之（コガシ）
（標ナムモミヂ）米家牟毛美（メヤモ）知米也母（チメヤモ）

右一首守大伴宿禰家持作（和乎）之

萱乃下モミチ葉ノ（カヤ）サリケル時ハ神ニ（カム）ヒケム（ヒケム）トハ疑モコヒツツケ

朝霧之（アサギリノ）多奈引田（タナビクタ）為爾（ヰニ）鳴鴈乎（ナクカリヲ）留得哉（トゞメエテムヤ）吾屋戸（ワガヤト）
（トゞメ置キテ后モ見ムヲ后ニ飛ビ去ラレテノチノ事ヲ兼テ思ヘル時ノ詞ナリ）
能波義（ノハギ）

右一首歌者幸於（ミユキノ）吉野宮之時藤原皇后御作（歌）但年月未審詳（ニ）。
（此時敕中ニトリ置カレテ如何）

十月五日河邊朝臣東人傳誦云爾（チカラ）

足日木之（アシビキノ）山黄葉爾（ヤマノモミヂニ）四頭久（シヅク）
（雫ニテルトヨメル如何）
公之越麻久（キミカコエマク）
（思ヒカケ）

右一首（ハ）同月十六日餞之朝集使少目秦（ハタヒトサハベ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

伊美吉石竹時守大伴宿禰家持作之
（四度ノ使ノ随ニ入宋亀七年ノ処ニ三）

雪日作歌一首

此雪之消遺時爾去来歸奈山橘之實光毛将見
（コノユキノケノコルトキニイサカヘナヤマタチバナノミノテルモミム）
（カヘリテノ帰ルハイフヨリカ不知）
（今ノ数科子）

右一首十二月大伴宿禰家持作之

大殿之此廻之雪莫踏禰數毛不零雪曾山耳
（オホトノノコノモトホリノユキナフミソ子向（続ノ誤）ババ（モフラザルユキゾヤマノミ）
（ニアラム）

爾零之雪曾由米縁勿人哉莫履禰雪者
（ユキゾユメ（勤）ヨルナヒトヤフミナ・フミソ子ユキハ）

反歌一首

有都都毛御見多麻波牟大殿乃此母等保里能雪奈布美曾禰
（アリツヽモ（王）キミタマハムオホトノノコノモトホリノユキナフミソ子（ハ）ム（ソ）ネ）
（古本ノ体ルヘシ）

右二首歌者三形沙彌承贈左大臣藤原北
（ノ）（ヲ）（ヨメル）（ヲ）
卿之語作誦之也聞之傳者笠朝臣子
（コヲ）（テ）
君後傳讀者越中國極
（ニ）（ヘム）（極）
久米朝臣廣縄

天平勝寶三年
（例ニ仍テ賀セラルヽ）
新年之初者彌年爾雪踏平之常如此爾毛我
（アタラシキトシノハジメハイヤトシニユキフミナラシツネカクニモガ）

是也

右一首歌者正月二日守舘集宴於時零雪殊多積有四尺焉即主人大伴宿禰家持作此歌也

落雪乎腰奈都美氏參來之印毛有香年之初爾

右一首三日會集介内藏忌寸繩麻呂之舘宴樂時守仙大伴宿禰家持作之

于時積雪彫成重巖之起奇巧綵發草樹之

花屬此攀久米朝臣廣繩作歌一首

奈泥之故波秋咲物乎君宅之雪巖爾左家理家流可毋

遊行女婦蒲生娘子歌一首

雪島巖爾殖有奈泥之故波千世爾開奴可君之挿頭爾

于是諸人酒酣更深鶏鳴因此主人内藏伊美吉繩麻呂作歌一首

ウチハブリトリハ ナクトモカクトモ バカリフリレクユキニ キエイ
打羽振鷄者鳴等母如此許零敷雪爾君伊麻
サメヤモ ナケ家持集 帰リマサメヤ
左米也母

守大伴宿禰家持和歌一首

ナクトリハ イヤシキナケド フルユキノ チヘニツメ(敎)コソワレ
鳴鷄者彌及鳴杼落雪之千重爾積許曽吾等
タチカテ子
立可弖禰

アチヘチハミノ(世)ヨヨチ多年稼ノ心ヲ
太政大臣藤原家之縣(姓氏)犬養命婦奉天皇(朝廷正亜ノ内イツレトシ)歌

一首(国ノマホラトモ国ノ奥原ヘ是ニ准ス)

アニグモヨ(ホ一通) 口(原)ニフ(階)アト(渡シ)過タルナルカミモケフニサリ
天雲乎富呂爾布美安多(太宰)之鳴神毛今日爾益
テカシコケメヤモ
而可恐之古家米也母

右一首傳誦極久米朝臣廣繩也

悲傷死妻歌一首并短歌 作主未詳

アメツチノ カミハ(無クナルヘキヤウツクシキワガツマニハ)ヒカルカミナルハ(イヒカリノ神ナリトタメク心ニテハ)
天地之神者無可禮(ナカレヤ)愛吾妻離流光神鳴波
タニラトメ(オトメトニカ) キモヒレ ニコロタガヒヌ イハムス(神代紀テムマモニラミハメルヲトメ)
多嬬嬬携手共將宿等念之爾情違奴將言爲
ベ セムスベシラニ ユフダスキカタニ トリカケシツ
便將作爲便不知爾木綿手次肩爾取掛倭文
ヌサヲテニトリモチテナ サケソトワレハイノレドニキテ
弊乎手爾取持而匆令離等和禮波雖禱巻而
子イモカタモトハクモニ(大幸ノ畑)タナビク
寢之妹之手本者雲爾多奈姚久

寢 反歌一首
ネ
寢爾等念氏之可毛夢耳爾手本卷寢等見者
ウツツニ オモヒテシカモ ユメノミニ タモトマキヌト ミレバ
スベナシ
須便柰之

右二首傳誦遊行女婦蒲生是也

二月三日會集于守舘宴作歌一首
ニ ニ ニ ノ ニ
君之往若久爾有婆梅柳誰與共可吾縵可牟
キミガ ユキモシヒサニナラハ ウメヤナギタレト トモニカ ワガカヅラ(カザ)ム

右判官久米朝臣廣縄以正税帳應入京
ニ ニ ニ ヲ ニ ル
師仍守大伴宿禰家持作此歌也但越中
テ ノ ヲ シ

風土梅花柳絮三月初咲耳
ヤヨヒニ テカク

詠霍公鳥歌一首
フタガミノ ヤマヘノ ホトトギス

二上之峯於乃繁爾許毛
ニ ニ モ ニ
伊敝太枳奈加受
イヘダキ ナカズ

未來栗賀受
(コモリレ)

右四月十六日大伴宿禰家持作之

春日祭神之日藤原太右御作歌一首即賜
ノ ニ ル ヲ ノ ニ リ ヲ ニ

入唐大使藤原朝臣清河參議從四位
ニ ノ ノ ノ ニ

下遣唐使
キホブチニ

大舶爾真楫繁貫此吾子乎韓國邊遣伊波敝
ヲ カラクニヘ ヤルイハヘ

カミタチ
神多智

師云天神地祇乎又大祓ニヨミ込ハ住吉ノ処乎

大使藤原朝臣清河歌一首

カスガノ
春日野爾伊都久三諸乃
イツクミモロノ
御室
麻泥
マデ

大納言藤原家餞之入唐使等宴日歌一首 三目

使君ハ大弁 神護元年二月ニ従三位ニ叙ス 弁官ハ少弁豊成ノ子 唐ノ人ハ皆ノ先ニ立ニ従ス

アヘグモノ
天雲乃
ユキカヨフ
去還
ムモノユヱニ
奈牟毛
能由恵爾
念曽
オモヒソ
吾為流
ワガスル
別
ワカレ
悲美
カナシミ

民部少輔多治比真人古作歌一首

三脱 北仲

土ヘ

即主人卿作之

伊勢ヘ下ル人ノ先ニ立ツヲ云フ

大使藤原朝臣清河歌一首

スミノエニ
住吉爾
イツク
伊都久
ハフリガ
祝之
カムゴト
神言
ユクト
時下ニ心モリ
等
モ
行得
ユケト
毛
モ
来等
クト
毛
モ
船

荒玉之
年緒長
吾念
有
児等
ラニ
爾可
妻ヲ
恋ヒ
月近附
奴

大使藤原朝臣清河歌一首

アラタマノ
ナガクワガ
モモヘルコ
ニコフベキツキチカヅキヌ

波早
ハヤケム
家無
神功皇后元年壬申朝 皇后選吉日入斎宮 親為神主ト 0 建干七日七夜乃告 神功ノ伊勢国之百傳渡遙縣之折鈴五十鈴宮所居神名檜賢木巌之御魂 天降坐ル 天照大神ノ教ノ随ニ 神乎誉田別尊 皇后ノ御腹ニ 応神天皇 也

大使ハ二両手ヲ卯ヨリ仕セラルヽヲ云フ 出船ヲ近ク引ク

大使ハ多治比真人広成也

五世二八千
天平五年贈入唐使歌一首 并短歌 作主未詳
テンピヤウ
ニ
オクレテアル

虚見都山跡乃國青丹與之平城京師由忍照
ソラミツ
ヤマトノクニアヲニヨシ
ナラノミヤコユ

難波爾
ナニハニ
ク
タリ
スミノエノ
ミツ
ニ
フナノリ
タヾワタリヒノ
イルクニニ
ツカハサレ
ワガ
セ
ノキミヲ
入國爾
遣和我勢能君乎
カヘサヘ
懸麻久乃由由志

遣唐使ハ二ヨリ舟ニ
イルトミヨリ此三津ハ
住吉ノ御津ヲ御津ヲ
ルヘレトニハミほニアラス

五雑組云倭国有日出天子致書日入天子之語 隋皇ニモ有

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

カシコキ スミノエノ ワガヰホミ カミフナノ
恐伎墨吉乃吾大御神舶乃倍爾宇之波伎座
フナド モ ニ タヽナハリテ サ
舶騰毛爾御立座而佐之
ハヤ テム トヽリ〳〵 ニ アラキカ セ ナミ ニ
藝波底羊泊々々爾荒風浪爾
テカ ヘリ ヽ セ モ トノ ミ カド ニ
而可敞理麻世毛等能國家爾

反歌一首

オキツナミ ナミヽ コソキミガ フネコギ
奥浪邊波莫越君之舶許藝可敞里來而津爾
ハツル ヽ デ ヘ ヨル
泊麻泥

阿倍朝臣老人遣唐時奉母悲別歌一首 續日本紀本無所見

アマグモノ ソギ ヘ ノ キハミ ワカヰモヘルキミ ニ ワカレム
天雲能曾伎敞能伎波美吾念有伎美爾將別
ヒハチカ ク ナリ
日近成奴

右件歌者傳誦之人越中大目高安倉人 姓オホノアソミタカヤスクラノベカ

種麻呂是也但年月次者隨聞之時載於
此焉

以七月十七日遷任少納言 紀ヲノリシクル 乃作悲別之歌

贈貽朝集使拯久米朝臣廣繩之館二首 カ

既蒲 ニ 六載之期勿值遷替之運於是別舊之 足カヘリ〳〵ヘ実五年〳〵ノ忽官アフ

新拾別 新川郡 石勢 家持

悽心中欝結拭涕之袖何以能旱因作悲歌
二首 式遺莫忘之志其詞曰
荒玉乃年緒長久相見邪之彼心引將忘也毛
[illegible]波世野爾秋芽子之努藝馬並始鷹獵太爾
不爲哉將別

右八月四日贈之

便附大帳使取八月五日應入京師因此以
四日設國厨之饌於介内藏伊美吉縄麻呂
館餞之于時大伴宿禰家持作歌一首
之奈謝可流越爾五箇年住々而立別麻久惜
初夜可毛

八月五日平旦上道仍國司次官已下諸僚皆共
視送於時射水郡大領安努君廣島門前之
林中頓設餞饌之宴于時大帳使大伴宿禰
家持和内藏伊美吉縄麻呂之歌一首
玉桙之道爾出立徃吾者公之事跡乎負而之

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

將去（ユカム）

正税帳使掾（ノヒ）久米朝臣廣縄事畢退（テ）任（ヲ）（家持ケ佩言之任ヒサル立歌ヘ池主カ館ニ遇ハ不應之座ヘ）
於越前國掾大伴宿禰池主之館（カ）（ニ）仍（ニ）共（ニ）飲樂
也于時久米朝臣廣縄贈（テ）（ヲ）（ニ）（ヨ）（ヘ）（ニ）（ウヱタル）（ハギノ）（ハツハナヲ）（ヨリテ）（カザシナタビ）（ヒ）（ヲ）（ニ）（ヲ）（ニ）（ヲ）（ニ

垂拱而天下治矣 注

瑞多婢未禰久申多麻比奴手拱而事無御代
トアメツチノヒツキトイモニヨロツヨニ
等天地日月等登聞仁萬世爾記續牟曽八隅
レワガオホキミハアキバナノレガイロノ
知之吾大皇秋花之我色爾見賜明米多麻
ヒサカニツキサカユルケフノアヤニタフトサ
比酒見附榮流今日之安夜爾貴左江
未詳二出酒宴之 江淡色之

反歌一首

アキノハナクサ〳〵ニアレドイロゴトニ
秋時花種爾有等色別爾見之明良牟流今月
ノキノトキノハナクサ

之貴左

右

為壽左大臣橘卿頌作歌一首

此等ハ家持京ニ上リ或ハ其ノ処ニテ

飯戸宮天平元年従五位下ヨリ宿禰六年七月散三位紀朝臣飯宮薨

神名帳

師名云尺言為寿謂進酒于尊者而祝无疆之寿

古事記雄略ケフモチモサカミツクレオカニカルトテ官人

イニシヘニキミガミヨヘテツカヘケリ

古昔爾君之三代經仕家利

サス処雄略元年即内大臣ナリニヤ

吾大王波七世申禰

七世ハ天子三世四世ノ王ホカ

十月二十二日於左大弁紀飯麻呂朝臣家宴歌三首

右中弁文雄宿禰ノ舎ナリ

手束弓手爾取持而朝獵爾君者立去奴多奈

帝茨城ノ御ミ棚舎ヘ狩ニ出玉ヘルヲ云

久良能野爾

右一首治部卿船王傳誦之久通京都時歌

舎人親王子三方王ノ人

未詳作主也

明日香河河戸乎清美後居而戀者京彌遠曽

伎奴（キヌ　是ノ侍御尓宮ヨリ藤原宮ニウツル也　此ニ藤原ヨリ奈良ヘウツル也　ホヘレサヽヲソコラヒハ神ノコヨク遠カルトヨリヰ三明日香　宮ヨリ藤原ヘウツル也　藤原宮ヨリ奈良ヘウツル也　時ノ歌ニ明日香ノ神ヨカ（スアスカ）ノ社ヲ思ヒイメ心ニ吹　飛鳥ヲスクノ里ニオキテイナハ君カアヽメリハミ（スカモアラン）此二首ヲ引合ヒルヘシ）

時歌也

右一首左中辨中臣朝臣清麻呂傳誦古京（行水見統日本紀卅廿九卷ニ）

十月之（カミナヅキシテ）具禮能（グレノ）常可（ツネカ）吾世古（ワカセコ）河堺（ヤドノ）戸乃黄葉可（モミヂハチリ）

（勝ノ時分定リヌルヲ）

落（スベク）所見（ミユ）

右一首少納言大伴宿禰家持當時矚梨黄（ニシテ也）葉作（ラ）此歌（ラ）也

壬申（天武天皇白鳳元年ニ當ル）年之亂平定（サメテ）以後（ノチノ）歌二首

皇者神爾（カミニ）之（シ）座者（マセバ）赤駒之（アカゴマノ）腹婆（ハラバフ）布田（タ井ヲ）爲乎（三ヤコ）京（君ノ國光仁ニ）師（保田ニテ駒モエスマヌ）

跡奈之（トナシ）都（ツ）

（天武ノ時無白馬ニヨリ逃行ノ比ニテヨメル歌ニヤ　安古ノ兄家持ノ祖父卿行ニ支武紀）

右一首大將軍贈右大臣大伴卿作

大王者神爾（カミニ）之（シ）座者（マセバ）水鳥乃（ミヅトリノ）須太（スダク）久水奴（ミヌ）麻乎（ヲ）

（オホキミハ）

皇都（ミヤコ）常成（トナシツ）都（ツ）

作者不詳

右件二首天平勝寶四年二月二日聞之即載（ス）於茲（ニ）也

閏三月於衛門督（カミ動）大伴古慈悲（コジヒノ）宿禰家（ニ）餞（紀ニ祐信備後ノ守ニ轉ト云名乎）

之入唐副使同胡麿宿禰等歌二首

韓國爾由伎多良波之可敷里許牟麻須良多家乎爾美伎多氏麻都流

右一首治比眞人鷹主壽副使大伴胡麿宿禰也

宿禰

梳毛見自屋中毛波可自久左麻久良多婢由久左美乎伊波布等毛比氏

右件歌傳誦大伴宿禰村上同清繼等是也

勅從四位上高麗朝臣福信遣於難波賜酒

有入唐使藤原朝臣清河等御歌一首并短歌

虛見都山跡乃國波水上波床座如大神乃鎮在國曾四舶舶能倍奈良倍平安早渡來而還事奏日爾相飲酒曾斯豊御酒者

反歌一首

ヨツノフヲハ ヤカヘリコ　トシノカヒニ　ツケキワガモノロコニデツヽヽタム
四舶早還來等白香著朕裳裾爾鎭而將待
（一本集從ニテホ絛ヲ玉裳ノスソニ付ケリトミエ）

右發遣勅使并賜酒饌宴之日月未得詳審

也

爲應詔儲作歌一首并短歌

アシビキノ ヤツヲノヘニ ツギくニ ミツガヲノ タユルコトナク アヲニヨシ ナラノミヤコヲ シキタヘノ ヨロツヨニ クニシラサムト ヤスミシシ ワガオホキミノ カミノミコト カシコキモノヲ オシテルヤ ナニハノサキニ ヨルナミノ シクニヨスト ミツノアカリミセテ ツキノカヘラフ ハルノヽニ ヒトリシヲレハ ミヤビヲノ ヒトニマジリテ ヲトメラガ ソテカヘシツヽ ヒラキテモ カクヨノツネノ ヲトメニモ ヒサシクアラヘ ヤマトシマ ヤマトノクニハ スメカミノ ミヨサカエムト ヒツキノミヤヲ アレマシテ カムサビユケバ ヒノクマノ カシノオホミヤ ヒムカシノ タケキノミヤニ ヤスミシシ ワガオホキミハ アメノシタ シラシメシツヽ カケマクモ アヤニカシコシ ヤマトノクニノ アヲニヨシ ナラノミヤヲ ヨキヒトノ ヨクミテヲレト ヨキカハト ヨクミシカラシ ミヨシノヽ ヨシノヽミヤハ ヤマカハヲ サヤケミトカ ミフネノヤマニ ヨロツヨニ カハナミノ タチテサカエム トコシヘニ カクシモガモト ミヨシノヽ ヨシノヽミヤヲ アキツミカミ

反歌一首

ナラノミヤ ヤマカハサヤケ ミフネノヤマ ヤマノヽノ ソノヒトモトモ ワスレメヤモ

或本反歌曰

ナラノミヤ ヤマカハサヤケ ミフネノヤマ ヤマノヽノ ソノヒトモトモ ワスレテオモヘヤ

右一首或本云

能乃布能八十伴雄島山爾安可流橘宇受（乳本ニ赤ノ字アリ）

爾指紐解放而千年保伎保伎吉等餘毛之恵（令動毛之恵ノ誤カ）

良恵良爾仕奉乎見之貴左（扇ヲ天ニ地ヲ神ニ作ル）

江歌

（題宗天皇崩時先帝雖被下置而未經幾日仍悲感不已又天平神護之詔詞云々）

天皇太后共幸於大納言藤原家（仲倉也）之日黄葉（モミヂセル）

（考謙ヘ）

右二首大伴宿禰家持作之

良目米立年之葉爾

（ニイテヽス）

（ふみ）

（詔辞 或大殿祭）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

異本ニ大和國雄
沢蘭

サハアラギヒトモトヲヌキ テ
澤蘭一株抜(俗ニコロゲ)取令(メ)持内侍佐(サ近江守生部緒知ノ妻ニ)佐貴山君遣(シ)賜(フ)
大納言藤原卿并陪従大夫等御歌一首

命婦誦(ヒソメシ)曰

御製ヲ藤原家ヘ持參ノ誦ヘ

コノサトハ ツギテ シモヤ オクナツノ
山里者繼而霜哉置夏野(ハ雄略紀ニ名ヲ蒜山トアリ)
チ タヅ タリケリ
知多(有)里家利

十一月八日在於左大臣橘朝臣宅肆宴歌
(大上天皇ハ聖武ノオリヰノ帝ノ云ヒシヘシ)

四首

ヨソノミニ ミレバ アリシヲ クサハ モミ
余曾能未爾見者有之乎草波毛美
ケフ ミレバ トシニ ワスレズ
今日見者年爾不忘

(天平勝宝二年ヨリ前ニ朝臣ト云ハ臣ヲ賜ヘルヲ云ヒ後ノ朝臣ヘ孝謙帝勝宝二年正月賜朝臣姓ニ)

續後拾遺中
井手左大臣
弥醜イヤシキ心

大納物語 大伴黒主
サヒ波マサクモ弁
フクラミ行ヨク
君トマレトカ

オモホユルカモ
所念可母

右一首太上天皇御歌

ムグラハフイヤシキヤドモ オホキミノ マサム ト
牟具良波布伊也之伎屋戸母大皇之座牟等
シラバ タフトカラシヲ
知者玉之可麻思乎

右一首左大臣橘卿(返シ奉ル)

マツカゲノ キヨキハマベニ タマシカバ キミキマサム カ キミキハマベ
松影乃清濱邊爾玉敷者君伎麻佐牟可清濱
(井手ニ此大臣ノ住玉ヘル泉水ノ濱辺ナルヘシ海ニハアラズ)
ベニ
邊爾

右一首右大弁藤原八束朝臣

アメツチニ　タスシテ　ワガキミ　ノ
天地爾足之照而吾大皇之
ヲ居ベリ　ヲカト一カ名ヨムヘシ和名抄ニ野王ル花橘ヲヨチ折テトヨメリ皇并手ノ里ニイヘリ
小里

右一首火納言大伴宿禰家持　未奏

二十五日新嘗會肆宴應詔歌六首

アメツチト　アヒサカエムト　オホミヤヲ　ツカヘマツレ
天地與相左可延牟等大宮乎都可倍麻都禮
バ　タウトクウレシキ
婆貴久宇禮之伎

續日本紀廿七神護二年語云　宇礼志岐事乎朕独乃味喜止念

右一首大納言巨勢朝臣　奉氏二名ヘ勝宝五年二月典薬頭次海帝朝中納言太夫比登之子

アメニハモ　イホツツナハフ　ヨロヅヨニ　クニシラサムト
天爾波母五百都綱波布萬代爾國所知牟等

式七日凡奏黒白酒料米者　造酒兒先下手次諸女共舂訖舂井神次祭竈神始釀酒日亦祭酒神
国別所須塵四口　○延四十造酒式曰新嘗會白黒二酒料官田稲二十束　畿内所進
同式云其造酒者米一石　舂訖以二斗八升六合為糵七斗一升四合為飯合水五斗各等分為
二甕〻得酒一斗七升八合五勺熟後以久佐木灰三升　抹卿生和合一甕口方称黒貴其一甕不和
是称白貴○宮内式云凡醸新嘗黒白二酒者毎年九月二日有
国郡記者以二類状進内侍〻奏下宣〻即仰下　其拌用○
式朽敗也説文云蘗牙米也本州云蘗米味苦无毒又有麦蘗○江次第十新嘗會節
會次第云内膳入自二月華門供御膳○次供御飯〻餔飲〻給臣下飯○御着鳴　臣下應之供白黒御酒八
度各次給同酒臣下一度　各一度　執之　三献式詳于次第○続日本紀廿六天平神護元勅曰黒紀白紀之云

天皇ヲ日ニタトフ

新堂ヲキヨレメ神ヲ祀

アメツチニ　タラシテ　ワガ　キミノ　来　イマセバ　カモ　敷　シキ来　ムロ　居　ヲリ　小里　ヲサト　ヘカ　ムロ　ヨシヘシ　ヲ　ムロ　ツ　花橘ヲヨチ折テトヨメリ　ムロハ井ノ里ニイヘリ

右一首少納言大伴宿禰家持　未奏

二十五日新嘗會肆宴應詔歌六首　每年行ハルヽ　ニ　ノトヨノアカリニ

天地與相左可延牟等大宮乎都可倍麻都禮　アメツチト　アヒサカエム　トヨミヤヲ　ツカヘマツレ　大宮ニヘトニ通ス

婆貴久宇禮之伎　バ　タウトク　ウレシキ

右一首大納言巨勢朝臣　奉氏二名之勝宝五年三月薨　續日本紀廿七神護二年詔云　宇礼志岐事乎朕独乃味喜止念

天爾波母五百都綱波布萬代爾國所知牟等　天奈モ

大堂舎ニ式ヲ阿波国所献ノ橘子各十五箇

抱春　ウメノ花ニ

伊ホツ、ナハフ

五百都々奈波布　似古歌

右一首式部卿石川年足朝臣　天平二六年九月薨

天地與久萬氏爾萬代爾都可倍麻都良牟　アメツチト　ヒサニ　ヨロヅヨ　ニ　ツカヘマツラム

酒白酒乎　キ　シロキ　ヲ　ミキ　賀詣之

右一首從三位文室智奴麻呂真人

島山爾照在橘宇受爾左之仕奉者卿大夫等　ニハヤマニ　テル　タチバナ　ウズ　ニ　サシ　ツカヘマツラハ　マヲチキミタチ　新嘗會ニモ用之

右一首大弁藤原八束朝臣　ソデタレテ　イザ　ワガソノニ　ウグヒスノコ　タノハナミニ　ミニ行ンノコトヲ　シメルニテハ也

袖垂而伊射吾苑爾鶯乃木傳令落梅花見爾　雖拂ノ心ニ似ル乎

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

江次名津下新宅令
三極柳ラウスルコトヲ

新勅一中納言家持
カツラ 和ノ名

右一首大和國守藤原朝臣（天平九年九月従五位下○房前ノ子ニ
ヒキノヤマレタヒカ　ナカテノ　えう 叙爵廿九 捨異志
三永手ノ子大中大夫ト
足日木乃夜麻之多日影可亘良家流宇倍爾
ヤサラニウメヲレバカゲカヅラケルウヘニ
也左良爾梅乎之奴波牟

右一首少納言大伴宿禰家持

二十七日林王宅餞之但馬守橘奈良
モモヨ　ノアンサツシ　ニ
麿朝臣宴歌三首

奈良麿上郡
能登河乃後者相牟之麻之久母別等伊倍婆
カナレクモアルカ　我ヘ
可奈之久母在香

右一首治部卿船王

立別君我伊麻左婆之奇島能入者和禮宿禰黒麻呂
タチワカレキミガイマサバレコシキシマノヒトハワレレク　我ヘト我メクヽ

伊波比氏麻多牟

右一首京少進大伴宿禰像見
右一官　和名ミヤコノスケトヒト

白雪能布里之久山乎越由可牟君乎曽母等
シラユキノフリレクヤマヲコエユカム　キミヲソモト

奈伊吉能乎爾念

左大臣（橘諸兄ノ官）換尾云伊伎能乎爾須流然猶喩曰
カヘテ　此カヲ云ル心イヒカタシ　サトシテ

如前誦之也

右一首少納言大伴宿禰家持

五年正月四日於治部少輔石上朝臣宅嗣
（イヘツギノ）
家宴歌三首

（コトシゲクアヒトハ花ニウメノハナユキニ）（折ヘ折ハヨカルベシ）（ヲレテヲヅロハ）
（中古ハ卅木ノシルシト神ナドシ同シクス昔ハ別ク此ノ人ノ如キ宴ニ宝ヲ尚ヨク〳〵可尋カナモカ（リチキリキナカタミニ神ヲフレホリヲトヨメルハ治ノ水ニ佰メルヲフレボルベシ）

雨繁不相間爾梅花雪乎之曰天折乎礼袖毛
（ムカモ）
伴可母

右一首主人石上朝臣宅嗣
（アルヒト）

梅花開有之中爾布敷賣流波慈哉許曾禮留
（ウメノハナサケルガナカニフベ）（雪ノフルニタトフ）

雪乎待等可
（雪ヲ待テサケトヨメルハ）（コヒヤコモレル）
西情詩話王君玉曰雪不宿有俗曰待伴後撰最之アリ初テ友マツ雪ハ又六帖六梅
ウハ五ノ我名カシラカ心ナリケリ
ヤミヨトヨメル山ノ友下ツ雪ノフルラン
風雅春上 最之梅花咲トヨメル

右一首中務大輔茨田王
（サムタノオホキミ）

新年始爾思共伊弖禮婆宇禮之久母
（アタラヨキトシノハジメニオモフドチ）（後語ムレ）（テレバウレシクモ）

安流可
（アルカ）
哉
（群）

右一首大膳大夫道祖王
（宝字元年ノ勅サヘヘカミノ新田部親王ノ子ニ）

十一日大雪落積尺有二寸因述拙懐歌三
（是家持ノ撰ル二巻下ノ詞ノ作者ノ名ナシ）

首

大宮能内爾毛外爾母米都良久布留雪乃
（オホミヤノウチニモトニモメヅラシクフルユキノ）

雪莫蹈禰乎惜之
（フミソヲレヲ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

ミソノフノ タケノハヤシニ ウグヒスハ シバナキ ニホフ ソノユキハ フリツヽ

苑布能竹林爾鶯波之 奈吉 尓保布 曽能雪波 布利都都

（正月十日ナリ）

鶯能鳴之可伎都爾保敝理之梅此雪爾宇 都呂布良牟可

十二日侍於内裏聞千鳥喧作歌一首

阿波須尓母 由伎波布利都追 尓保敝理之 宇米乃波奈 伊麻太知流良牟

（乙ハ一云ニ）

渚渚爾母雪波布禮禮之 宇米乃波奈 伊麻太知流良牟

（乙ハ一云ニ）

之爲牟等已呂奈美

（居心）

中二月十九日於左大臣橘家宴見攀折柳

條歌一首

阿乎夜疑乃 保都延欲治等理可豆良伎 都利加 氣婆 等保都比等 美都追曽奈都久

（一云ニ）

青柳乃保都枝與治等理可豆良伎都利加氣婆遠都比等美都追曽奈都久

（一云ニ）

戸爾之千年保久等曽曽

二十三日依興作歌二首

波流乃野爾 須美礼多奈妣伎 宇良良加爾 鶯奈久毛

春野爾霞多奈妣伎浦良加爾鶯奈久毛

久母

和我屋度能伊佐左村竹布久風能 宇等能加 蘇奈敝伎許由流 可是

（小介日本紀小村竹）

我屋度能伊佐左村竹布久風能於等能可蘇氣伎許能由布敝可母

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

857
47

うらく 遥し うらくに日 独居ノ物思キ体ヲ云リ

月令ニ仲春ニ鶏鴝鳴トアルヨリモ詩ニモ同ジヒバリトヨムヘキヲクヒスト云ハ誤ナリ仲春ニヨリテウグヒスナクトイフヘキ称ハナシ

二十五日作歌一首

宇良宇良ニ照ル春日ニ雲雀アガリ情悲モヒトリシ思ヘバ

毛比登里志於母倍婆

皆注ハ家持自作ナルユヘニヒバリニナク

春日遅々鶬鶊正啼悽惆之意非歌難撥耳

仍作此歌式展締緒但此巻中不偁作者名

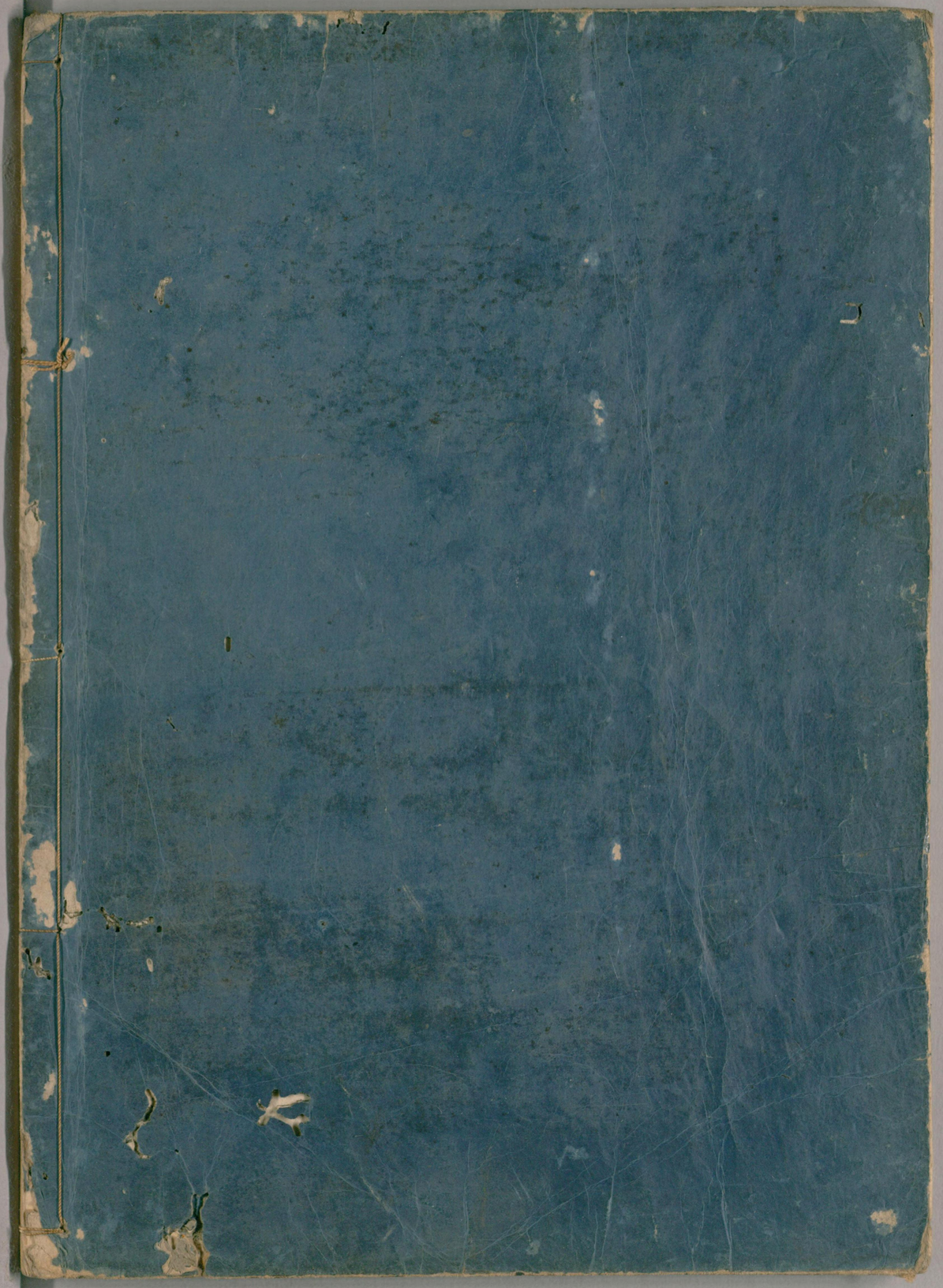
字徒録年月所処縁起者皆大伴宿禰家持

裁作歌詞也 一云本先之中間 異本左注也

萬葉集巻第十九

江談抄云東行西行雲吟二月三月日遅し菅家後集未天北窓三友詩此詩後人及菅家人室家令唐北野令詠之間天神令教曰ナマニユキカ・ヤマニユキ雲ハルくキサラキヤヨヒ日ウフイトヨムヘシト下云々

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47

ガラス使用